

頌栄

No. 112

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



主が来られるときまで

牧師 清弘 剛生

今年もアドベントを迎えました。「到来」という言葉に由来するこの季節は、世の終わりにおけるキリストの到来（再臨）に思いを向ける期間です。

キリストの再臨は私たちが繰り返し行っている聖餐にも深く関わっています。聖餐を行う度に、私たちは次の御言葉を聞くことになるからです。「だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです」（1コリント11・26）。

「主が来られるときまで」ですから、主が来られるときに

聖餐は終わります。逆に言えば、主が来られるときまでは聖餐は終わってはならないということです。主が来られるときまで、継続的にキリストを記念して聖餐を行い、「主の死を告げ知らせる」ことを託されているのが教会です。

今年のアドベントには三年ぶりで聖餐を行うことができず。そこでは「主よ、来てください」という切なる祈りと共に、もう一方において、「仮にたとえ何千年先になったとしても、主が来られるまでは聖餐を継続するのだ」という決意のもとに聖餐は行われるべきなのでしょう。「主が来られるときまで」ですから。

ならば明らかなのは、自分の信仰生活、自分の奉仕や働きだけを考えていてはならないということ。自分が地上にいないなくなった後にも「主が来られるときまで」継続されるべきことがあり、それを私たちは共同体として主から託されているのですから。

何千年とは言わずとも、宣教の継続を考えるならば、ある時点で牧師の交代は必然です。役員の交代も必要です。働きを担う人は新しく入れ替わっていく必要があります。礼拝の場所も建て替えられる必要があるでしょう。そもそも前提として、キリストの御救いにあずかった人々により、信仰が受け継がれていくことが必要です。これらのことについても思いを広げつつ、三年ぶりのアドベントの聖餐を行いましょ。